

【開講日】平成30年5月25日(金)

【はる】三鷹サテライト教室

文学

三鷹

301061b

【連続講座】夏目漱石生誕150年記念 第二弾
漱石前期三部作『三四郎』についての断想
— 美禰子の純粹 —

受講料 (振込額)	1,500円 ※連続講座「夏目漱石生誕150年記念 第二弾」全7講座お申し込みの場合9,000円				
必携テキスト	——				
講座概要	曜日	金曜日		日程	
	時間	13:00～14:30			
	回数	全1回	定員		50名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室			
講師	元本学非常勤講師 千石 隆志 (せんごく たかし)				
	1945年、満州ハルビンにて生を享く。 早稲田大学文学部、日本文学科修士課程修了。 元早稲田大学高等学院・教諭。2004年度の1年間、ロンドン大学のアカデミック・ビジターとしてロンドンに滞在。 著書に、『芥川龍之介覚え書き』、『漱石論考』(共著)。 『ぼつちやん事典』(2014年)の執筆に参加。 その他、漱石論を中心に論文多数。				
内容	三四郎の人生に、一瞬、汽車に轢死する女がよぎります。突然現れ、突然消える、この何処にも行くところのない女は、どういう意味を持つのでしょうか。漱石の作品系列の中で、この女は、思いの外に長い射程を持っているのかも知れません。 第五章の美禰子と野々宮の議論の中に、「空中飛行器」の話題があります。二人の意見は氷炭相容れないわけですが、そこに美禰子の自己の人生への願いが、率直に現れています。しかし、その願いを(結果として)実現しようとした行為は、上野の展覧会で、三四郎と絵を見て廻る場面に無残な結末を迎えます。 教会の前で、美禰子は三四郎に呟くように唱えます。われは我が咎を知る。我が罪は常に我が前にあり。詩篇51の一節です。罪とは何なのでしょう。そんなことも考えてみたいと思います。				
	※『三四郎』について。予め読んで頂いていた方がいいし、又、お持ちであれば、持参して下さった方が便宜でしょう。どのような版でも構いません。まだお持ちでない方には、集英社文庫『三四郎』(350円+税)をお勧めします。比較的読みやすいし、他より安いと思います。むろん、手ぶらでも構いません。				

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学

Musashino University

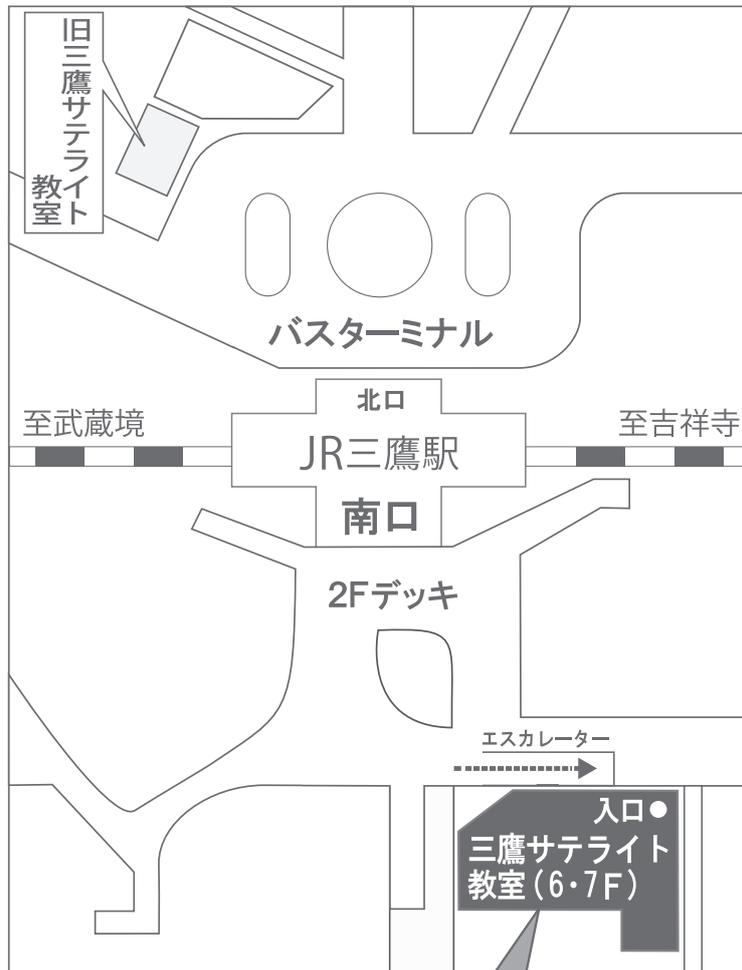
お問い合わせ TEL 042-468-3222
FAX 042-468-3211

開室日: 月～金曜日 9:30～18:00
土曜日 9:30～15:30 (祝日を除く)

武蔵野大学 社会連携センター

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
www.musashino-u.ac.jp

武蔵野大学 三鷹サテライト教室 平成28年3月より南口に移転



JR三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 6・7 F
(三菱東京UFJ銀行のビル)

1階入口からお入りください。

- ・ 教室は講座の15分前よりお入りいただけます。
(前の時間に講座がある場合は教室の準備ができるまでお待ちいただくことがあります)
- ・ 教室前の机にある出席簿に○をつけてから教室にお入りください。
- ・ 生涯学習講座登録証を携帯してください。
- ・ 欠席の連絡は必要ありません。
- ・ 駐輪場、駐車場はありませんのでご了承ください。